

令和7年度

事業報告

上富良野町発達支援センター『ひよこ学級』

《 在籍数及び年間利用者数 》

上富良野町	54人	年間利用	1,717回
中富良野町	5人	年間利用	146回

《 職員体制 》

R8.3月末

管理者	1人
児童発達支援管理責任者	1人
療育指導員（正職）	3人（内1名育児休暇）
療育指導員 （会計年度任用職員）	4人

《 指導体制 》

個別指導 … 午前2枠、午後2枠（1時間）

	月	火	水	木	金
09:00～10:00	個別	個別	個別	個別	個別
10:30～11:30	個別	個別	個別	個別	個別
13:30～14:30	個別	個別	個別	個別	個別
15:30～16:30	個別	個別	個別	個別	個別

《 在籍児推移 》

月 (開設日数)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	入退級		
								うち中富	入級	退級
4月(20)	0	0	9	8	16	13	46	4	4	1
5月(20)	0	0	8	8	16	13	45	4	0	0
6月(21)	0	0	8	8	16	13	45	4	0	0
7月(21)	0	2	9	8	17	13	49	4	4	0
8月(19)	0	3	9	8	17	13	50	4	1	0
9月(20)	0	3	9	8	17	14	51	4	1	1
10月(22)	0	4	11	8	16	14	53	4	3	0
11月(18)	0	4	11	8	16	14	53	4	0	1
12月(21)	0	4	11	8	15	14	52	3	0	0
1月(18)	0	4	11	9	15	14	53	3	1	0
2月(18)	0	4	12	10	15	14	55	4	2	0
3月(21)	0	4	13	10	15	14	56	4	1	20

*3月末通級児童数 3月末日合計人数+入級合計数-4月入級人数 (56+17-4=69) 年間児童発達利用人数 69名(上富良野 64名 中富良野 5名)

《 他機関利用の状況 》

- ・認定こども園上富良野高田幼稚園 14人
- ・認定こども園わかば中央保育園 15人
- ・なかふらのこども園 5人
- ・認定こども園上富良野西こども園 10人
- ・認定こども園わかば愛育園 13人
- ・子育て支援等 2人

《 年度別利用者数の推移 》

年 度	年間開設日数	延べ利用者数	月平均利用者数	一日平均利用者数
令和3年度	220日	1,817人	165人	8.3人
令和4年度	229日	1,636人	136人	7.1人
令和5年度	221日	1,689人	141人	7.6人
令和6年度	240日	1,629人	136人	6.8人
令和7年度	239日	1,875人	156人	7.8人

《 研 修 》

月 日	内 容	参加者
6月13-14日	第32回北海道通園センター連絡協議会研修会	1人
7月4日	北海道サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者基礎研修	1人
7月10日	令和7年度第1回管内母子通園センター関係職員等研修会	4人
8月2日	令和7年度肢体不自由児通園施設職員研修会	1人
10月4-5日	北海道乳幼児療育研究学会 第39回研究大会	2人
10月7日	令和7年度指定障害福祉サービス事業者集団指導（オンライン研修）	2人
11月6-7日	第9回旭川子ども総合療育センター地域支援セミナー	会場参加1人 web参加3人
11月13日	中富良野町教育委員会研修会	2人
11月19日	令和7年度障害児等支援体制整備事業 発達支援関係職員実践研修 （オンライン研修）	1人
11月28日	令和7年度感染症予防対策研修会	3人
2月13日	「こども性暴力防止法」に関する事業者向け説明会	3人
3月8日	令和7年度北海道子どもの虐待防止フォーラム（オンライン研修）	1人

《 子ども発達支援推進研修会 》 場所：上富良野町保健福祉総合センター

日 時	9月19日（金）18時30分から20時00分
演 題	「発達障害の当事者が困っていることとは？～当事者の視点から支えるために～」
講 師	齊藤 真善 氏（北海道教育大学 札幌校 准教授）
参 加 者	71人（町内参加者57人、町外参加者14人） 託児2名

《 人材育成研修会 》 場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	6月4日（水）18時30分から20時00分
演 題	「発達・保育支援を考える～理学療法士の視点から～」
講 師	田中 大地 氏（中富良野町役場福祉課介護支援係 地域包括支援センター 理学療法士）
参加者	認定こども園保育教諭、上富良野町教育関係者、福祉関係者、管内発達支援センター関係者 56人

場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	8月28日（木）18時30分から20時00分
演 題	「仲間と共に広げる保育・療育～地域連携のための職員集団づくり～」
講 師	熊田 広樹 氏（旭川市立大学短期大学部 幼児教育学科 教授）
参加者	認定こども園保育教諭、上富良野町教育関係者、福祉関係者、管内発達支援センター関係者 27人

《 道立施設専門支援事業（基礎研修） 》 北海道旭川子ども総合療育センター

日 時	6月9日（月）9時から16時
基礎研修	通園児2人受相
派遣職員	木村医師、寺尾言語聴覚士

《 地域療育支援 》 北海道立旭川子ども総合療育センター専門職による運動面、言語面の相談

実施回数	3回（4月25日、7月23日、8月19日）
派遣職員	言語聴覚士（寺尾、筒井）、作業療法士（木村）
受相者	9人（通園児4人、通園外5人）

《 巡回支援専門員整備事業 》 北海道療育園専門職による運動面、言語面の相談

実施回数	7回（5月20日、6月26日、9月12日、11月14日、12月11日、令和8年1月23日、2月6日）
派遣職員	言語聴覚士（佐藤）、作業療法士（杉之下）
受相者	20人（通園児11人、通園外9人）

《 療育講話 》 場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	7月8日（火）10時15分から11時45分
演 題	「見方を変えると、味方になる」
講 師	野島 彩 氏（江別市 療育を利用されていた保護者様）
参 加 者	児童発達支援通級保護者 11名 託児4名 職員8名

場所：上富良野町こどもセンター会議室

日 時	12月3日（水）10時30分から11時30分
演 題	「子どもの困り事の理解のために」
講 師	花香 真宣 氏（北海道立子ども総合医療・療育センター（コドモックル））
参 加 者	児童発達支援通級保護者 9名 関係機関 1名 託児3名 職員8名

《 その他 》

保護者交流会 6回（R7.4月、6月、8月、10月、12月、R8.2月）	2か月に1回	年6回
発達検査・知能検査 11回 検査者：松田臨床心理士、辻臨床心理士		
カウンセリング 8回 相談員：松田臨床心理士		
職員研修会、事例検討会（講師：北海道盲学校 逢坂一伸氏）		R7.7月4日実施
家族支援（発達相談等） 131回		家族相談・兄弟相談・検査結果報告・担当者会議参加等
きょうだい支援 250回（実人数33人）		
市町村子ども発達支援センター通級回数 1,887回		児童発達支援前の発達相談や個別支援等
社会福祉協議会ボランティア依頼 34回（きょうだい支援）		

《 活動のまとめ 》

○療育支援

- ・ 子どもの発達過程・特性を理解し、子ども自身の力を認め、それぞれに応じた適切な援助と環境調整を行った。
- ・ 発達状況に応じた個別支援計画を作成し療育を行った。
- ・ 個別支援計画によって子どもの発達や状況の課題について保護者と共通理解を深める機会とした。また、定期的な見直しを行い、よりよい療育につながるよう努めた。
- ・ 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士等の助言、発達検査の実施等を踏まえ、療育の質の向上に努めた。
- ・ 認定こども園と情報共有を行い、療育の充実を図ることに努めた。
- ・ 発達相談から児童発達支援へスムーズに移行できるように努めた。
- ・ 保護者のニーズに応じた指導時間対応等に努めた。

◆課題

- ・ 環境要因に重点をおきつつ、社会性・運動面・言語面の発達にも目を向けていきながら、早期での関わりを提供できることを目指す。
- ・ 保護者のニーズ把握や先の見通しが持てる療育が提供できるよう、スタッフの資質向上を目指す。
- ・ ケースごとの状況等を職員間で共通理解できる会議等の実施に努める。

○家族支援・きょうだい支援

- ・ 特性のある子どもを育てる家族の育ちや暮らしが安定するよう家族支援、家族相談に努めた。
- ・ 通級児きょうだいの発達にも着目し、きょうだい支援に努め、必要に応じて専門家の相談や相談支援事業所へつなげた。社会福祉協議会ボランティアセンターへ依頼を行った。
- ・ 保護者交流会を設け、親同士の交流の場、発達支援への意見・要望等を聞く時間を設けた。
- ・ 保護者向けの療育講話を2回実施した。
- ・ 年長児、年中児の保護者とOB保護者の交流会を設け、就学までの準備や入学後の子どもの様子について話し合う場を作った。

◆課題

- ・ 年齢別での保護者交流会や修了児保護者が集い、情報交換できる場を設ける。
- ・ 個別で保護者と十分な時間を設ける。

○地域の体制づくり

- ・療育に関する情報及びそれぞれの機関の専門的知識や経験を共有し、地域全体における療育の充実を目指した。
- ・乳幼児健診等で発達課題のある子どもに向け、相談支援事業所と連携を図り、早期療育に務めた。
- ・地域に向けての学習会開催で他機関との情報交流や地域啓発、周囲理解を図った。

◆課題

- ・療育に関する情報及び適切な関わりに向けて、連携を図り、職員のスキルアップに努める。
- ・すべての子どもたちが地域で楽しく過ごせること、子どもの特性が活かされる環境をつくることを目指し、地域理解・周囲理解が図られるよう啓発、活動に努める。